

4月27日（水）は、眼科検診（全学年）があります。

眼科医の岩澤暁先生に、目のまわり、まつげ、まぶた、結膜、角膜などに病気の疑いがないか調べていただきます。

【眼科検診で気を付けること】

- ① 保健室へ入る前にアルコールで手指を消毒します。
メガネは外しておきましょう。
- ② 保健室の中では、青色のテープの前に順序よく並びましょう。
前が空かないように気を付けましょう。
- ③ 検査前に目をこすったり、かいたりしないようにしましょう。
- ④ 自分の番になったら、緑色のテープの前に立ち、名前を言って、指1本で自分の両目の下まぶたをひっぱりましょう。
- ⑤ 「ありがとうございました。」と挨拶をしましょう。



【眼科検診で見付かる病気】

アレルギー性結膜炎

主な症状

粘膜は、まぶたの裏側と白目の表面をおおっている膜で、ここにアレルギー性の炎症が起きている状態です。

目のかゆみ、まぶたの裏側にできる粒状の盛り上がりや黒目と接触するためのゴロゴロした異物感があります。涙や、目やにが出ることもあります。

治療

対症療法で、抗アレルギー薬の目薬がよく使われます。

斜視

主な症状

両目を開いた状態で、一方の目が真ん中にならずにずれている状態です。ずれている方向によって外斜視・内斜視・上斜視・下斜視があります。常に健康な片方の目だけで物を見ている状態です。

治療

症状によって治療法が異なります。いずれにしても治療や矯正が必要な場合は、できるだけ早いスタートが望まれます。

がんけんえん

眼瞼炎（アトピー性眼瞼炎）

主な症状

まぶたの炎症で、赤み、腫れ、かゆみ、ただれを伴うこともあります。アトピー性皮膚炎を伴って起こることも多い症状です。かゆみのため何度もこするなどまぶたに刺激を加え続けると、まつげがなくなったり、まぶたが変形してしまったりすることがあります。

治療

原因によって治療法が異なります。原因にあった軟膏が処方されます。基本的にはよく洗い、清潔を保つことが大切です。

【普段から注意が必要な目の病気】

ばくりゅうしゅ 麦粒腫

主な症状

俗にいう「ものもらい」。細菌の感染でまぶたの一部に赤み、痛み、腫れが生じます。化膿が進むと腫れた部分が自然に破れて膿が出ます。膿が出れば回復に向かいます。

治療

抗生物質の点眼や内服を行います。化膿が進んでいる時は、切開して膿を出すことがあります。汚れた手で目をこすらないように注意します。

さんりゅうしゅ 霰粒腫

主な症状

まぶたにあるマイボーム腺（上下まぶたの内側に並び皮脂腺）の出口がつまって、慢性的な炎症が起こります。まぶたの腫れやコロコロするまぶたの異物感があります。痛みや赤みはありません。

治療

小さければ自然治癒することもあります。大きいときは、注射や手術による摘出が必要になります。

「目がゴロゴロする」「まぶたが腫れてる」と保健室に来る人もよくある病気です。早めに治療が必要な場合がありますので、自己判断をせず、受診しましょう！！



出席停止になる
病気です。

流行性角結膜炎

主な症状

ウイルスの感染によっておこる結膜炎で、「はやり目」と呼ばれています。結膜が充血し、目やにや涙がたくさん出て、眼痛を伴うことがあります。かゆみはほとんどありません。感染力が極めて強いので、学校感染症に指定されています。診断や対処が遅れてしまうと感染が拡大します。充血・目やにが激しいときは流行性角結膜炎を疑い、早急に眼科を受診しましょう。

治療

特効薬はありません。ウイルスへの抗体が体内で作られるのを待ちます。症状を和らげる目薬や細菌感染を予防する目薬を使用することもあります。

【屈折異常（近視・遠視・乱視・弱視）】

視力検査の最大の目的は、低視力を見つけて、日常生活・学校生活に不都合がないように眼科受診につなげることです。学校の視力検査や眼科検診では低視力の原因まで分かりません。また、学校の検査は、スクリーニング検査になるため、眼科に受診した結果、経過観察もしくは異常なしという場合もあります。しかし、矯正が必要かどうか、低視力の原因が何かを正しく知ることは大切です。視力が B 以下だった場合は、眼科を受診するようにお勧めします。